

19-15 消費の大部分は生産過程での消費である

マルクスは『経済学批判要綱』で「消費の大部分は直接の使用のための消費ではなくて、生産過程での消費」であること、「労働者の消費は資本家にとってそれ自身で十分な消費ではけっしてない」ことを「正しい」指摘として確認している。

「たとえば、すでにシュトルヒがセーに反対して、消費の大部分は直接の使用のための消費ではなくて、生産過程での消費、たとえば機械、石炭、油、必要な建築物、等々の消費である、と指摘しているが、これはまったく正しい。この場合の消費は、ここで問題にしている消費とはけっして同じではない。同様にマルサスとシスモンディも、たとえば労働者の消費は資本家にとってそれ自身で十分な消費ではけっしてない、ということを正しく指摘している。」⑥-[25]P77上5-8 (マルクス『経済学批判要綱』Ⅱ339～41P)